

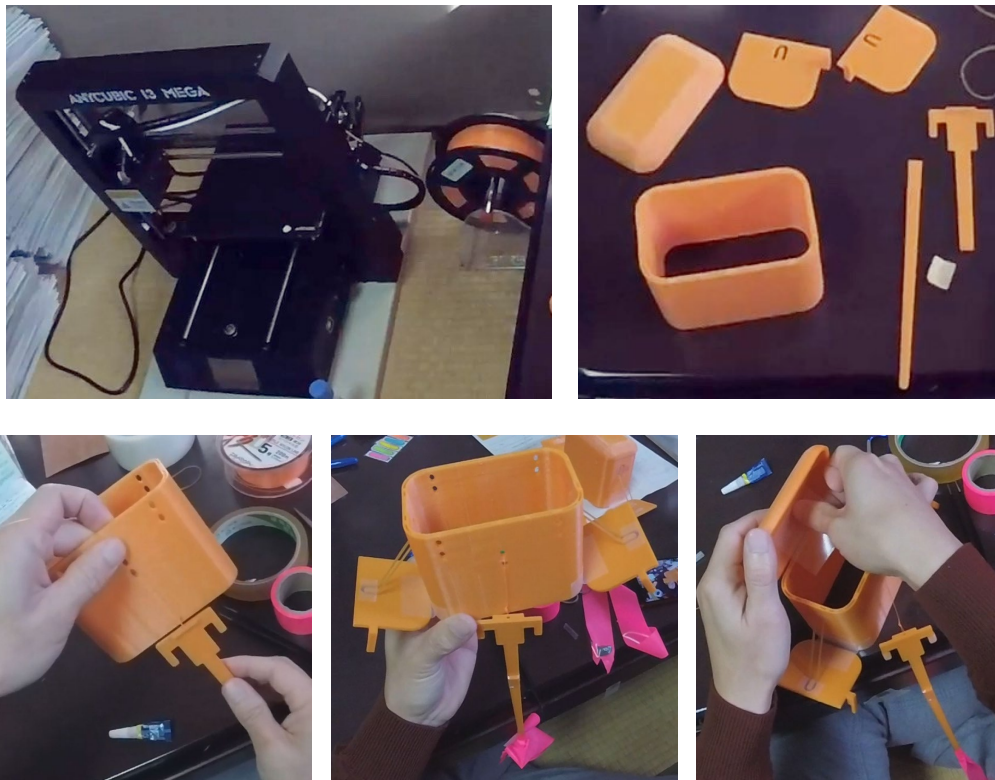


図1. ドライアイスを遠隔的に投入する装置を作るため、3D プリンターでパーツを作り(上)、釣り糸、養生テープ、輪ゴムを使って組み立てた(下)

3. 結果と考察

対策は6人から10人で行い、2～3機のPhantom4を用いて、3卵以上の巣を選定しながら、繁殖抑制作業を行った。複数回の作業を行うと、前回までに処理した巣が未処理の巣と判別できなくなってしまうため、食品添加物である青色1号を、装置に入れたドライアイスにごく少量混ぜてから、投入作業を行った(図2)。わずか2回の処理で16巣58卵の繁殖を抑制することができた。周辺水域を管轄する鬼怒川漁協組合員自らドローンを操縦し、ドライアイス投入したことは特筆に値する。

鬼怒川漁協のアユ放流がほぼ終了した2020年5月1日に繁殖状況の確認のため空撮を行ったところ、138巣で確認された雛はわずか31羽のみであり、営巣数についても、2019年の193巣から大幅に減少した。